

## スポーツアリーナ施設における

「する」スポーツのために必要とされる施設機能と

「みる」スポーツのために必要とされる施設機能との

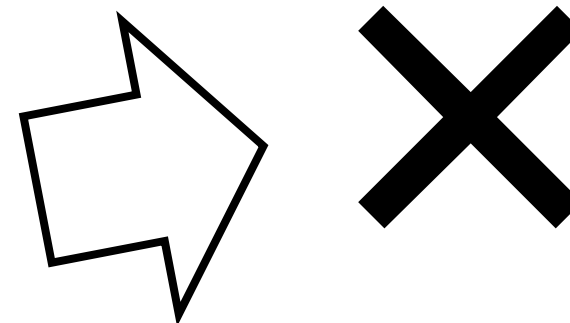
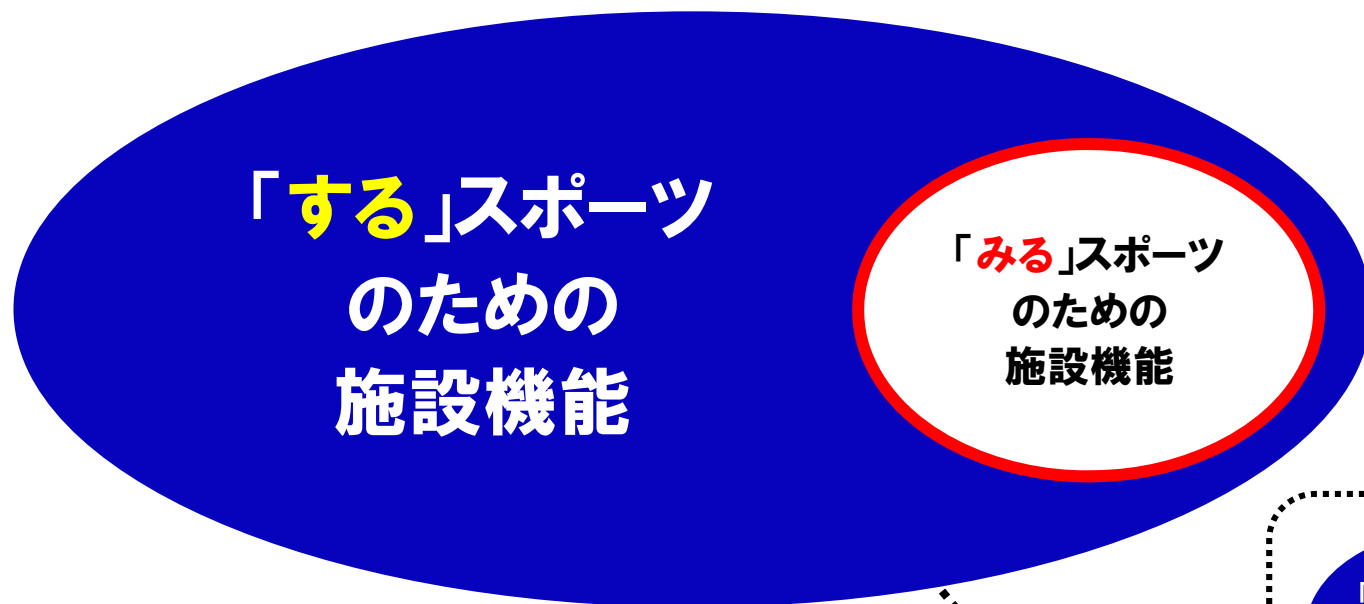
最適融合の考え方（案）

1. 「する」スポーツのために必要な施設機能と「みる」スポーツのために必要とされる施設機能の対比
2. “最適融合”の誤った考え方
3. 日本と欧米のスポーツ施設投資に関する考え方の違い  
“日本のスポーツ施設はなぜプロフィットセンター化しないのか・・・”
4. 「みる」スポーツのために必要な施設機能を基本として  
「する」スポーツのために必要な施設機能を付加したスポーツアリーナの基本設計概要
5. 「みる」スポーツのために必要な施設機能に特化したスポーツアリーナの基本設計概要
6. 参考資料（「みる」スポーツのためのアリーナ施設で開催した国際大会の計画図面）

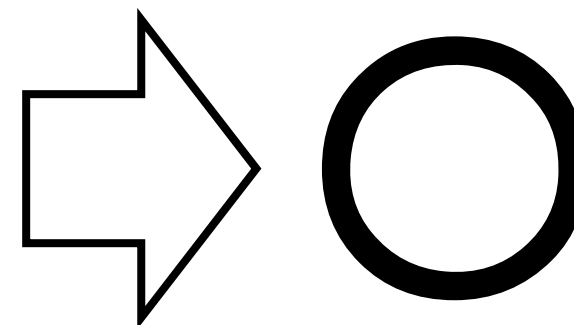
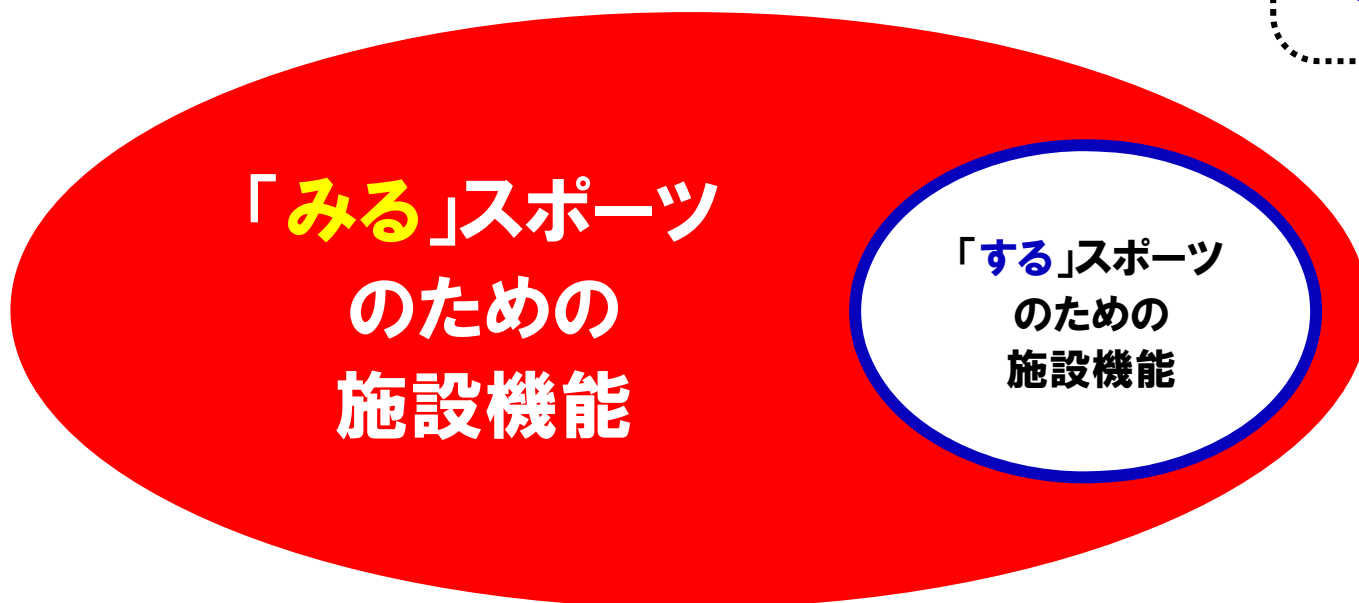
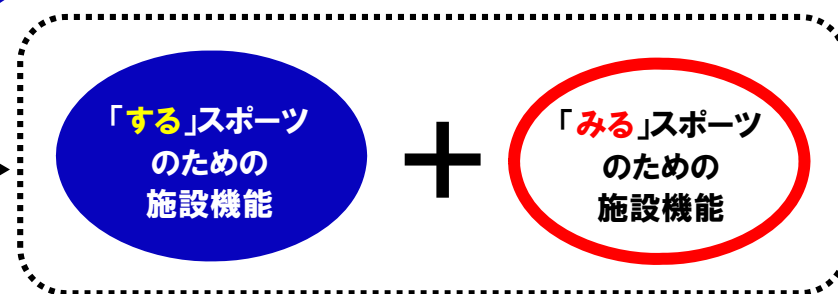
# 1. 「する」スポーツのために必要な施設機能と「みる」スポーツのために必要とされる施設機能の対比

「する」スポーツのために必要な施設機能		「みる」スポーツのために必要とされる施設機能
一度に多人数/多チームでスポーツが行える。また、一度に複数の試合の実施が可能である広さを有するため、多数のチームが参加して行われる大会の開催が可能である。床面はウッドフロア常設が必須である。	①メインアリーナ	可動席を使用しても過不足なく競技エリアが設定できる広さがある。ただし、その広さは、固定席からの試合コートの視認性が、どの位置からでも低下しない程度の適切なレベルにある。床面はウッドフロア常設は必須ではない。
メインアリーナに加えて、1面もしくは2面のコート設定が可能となるため、より多くの人、チームの利用が一度に可能になる。	②サブアリーナ	サブアリーナを有することは必須ではない。ただし、国際大会開催の際に、ウォームアップエリアとしての利用が、国際連盟の開催規定に必要とされる要件として網羅されている場合がある。
トレーニング、フィットネス、水泳、武道、その他レクリエーションなど、個人利用においても多種・多様な利用機会を設けるための施設、設備を有し、より日常的な市民の利用を促すことを可能にする。	③付帯運動施設	スポーツ興業の会場としては特に必要ない。ただし、施設の日常的な運営の上で、収益確保のための利点がある場合は、一般利用を前提としたスポーツジム施設を併設することも可能である。
大会などの最大規模での利用を想定して、過不足ない部屋数の諸室があり、また、利用者個人の荷物を保管するためのロッカー設備が更衣室には常設されている。	④諸室/更衣室	部屋数、各部屋の広さ、内部設備や常設備品など、開催を想定するスポーツ興業で必要とされる諸室機能が、各利用者のニーズ毎に過不足なく整えられている。更衣室には不要な設備は一切設置しない。
日常的な一般利用者の人数規模に応じた広さがあり、利用者の利便性を考慮した施設機能が一つの場所に集約されている。また、一度に多数の利用者の来場を想定して、十分な広さの間口の出入口が設けてある。	⑤メインロビー	スポーツ興業開催の際に想定される来場者毎の対応、動線などの運営上の効率性、安全性が図れる十分な広さを有し、また出入口の設定位置も適切な動線設定に見合う位置にある。
大会開催の際の応援者や見学者の利用、および各種催事や集会開催時の利用を考慮して、適切な規模で観客席は設置される。ただし、座席の仕様に関して要件はない。また、可動席の設置は必須ではない。	⑥観客席	固定席、可動席のすべての座席は個席タイプのイスが設置され、サイズ、座席の品質もスポーツ興業に見合う品質が保たれている。また、可動席へは固定席からの出入りを考慮した動線設計が成されている。可動席の設置は必須。
観客席の座席数に応じて、適切な広さのスペースが設けられている。また、応援者や見学者の休憩スペースとしての利用も考慮して、イスなどを常設する。	⑦観客ロビー	座席数に応じた人数の滞留を想定した十分な広さを有し、また、その広さは、観客サービスのためのブース等の設置物のためのスペースも加味したものである。なお、観客ロビーは観客席と同じ階層にあり、メインロビーとは区分する。
館内に常設される売店設備等は、一般利用者のニーズに沿った品目の販売を主として、必要かつ適切な規模で設置される。ただし、観客席内での飲食が可能であること、および飲食物の常時販売は必須ではない。	⑧飲食環境	スポーツ興業開催時に稼働できる売店用設備(契約、賃貸等)が常設され、また、日常的に営業されているレストランが館内に常設されている。自販機は観客席エリア内に適切な規模で配置されている。客席内はすべて飲食可能とする。
利用者のための施設機能が集約されるメインロビー付近、およびメインアリーナ、サブアリーナに隣接した位置に適切な規模でトイレが設置されている。ただし、観客席エリア内には、座席数に応じた規模のトイレ設置の必要はない。	⑨トイレ	観客席数に応じた適切な規模数、設置位置でトイレを設置する。ただし、観客が出入りできないエリアにあるトイレは、その対象には含めない。また、多目的トイレは、授乳設備としての兼用も考慮して、適切な規模で設置する。
日常的に、また、特定の時間帯を想定せず、利用者が施設を訪れることを想定し、更に、個客利用を考慮し、相応規模の駐車スペースを有する駐車場の確保が必要である。施設の立地環境によっては駐車料金の徴収は控えるべき。	⑩駐車場	施設へのアクセス環境によって要件は異なる。公共交通機関を利用して、不便なくアクセスできる場所に施設があることを前提として、その利便性のレベルに応じて、一般来場者用の駐車場の必要規模を考慮する。
施設の利用者(スポーツをする人)が身障者であることを考慮した施設機能、設備を過不足なく配備する。また、アリーナのある階層はすべてバリアフリー設計を原則とする。	⑪身障者用設備	車イス席、身障者用駐車スペース、エレベータ、多目的トイレなどの設備の設置に加えて、これら設備を適切な動線上に配置する。設置規模は、観客席数に応じた数的規模をJPC等の基準を元に算出する。
全く考える必要はない。ただし、相応の対応が必要となる場合のために、管理事務室内に接客室を常設しておくことが望ましい。	⑫特別来賓用設備	VIP等をもてなすための専用の施設機能(観覧席、控室、ラウンジ、トイレ、その他飲食関連設備等)を常設している。設置規模は、観客数全体の規模に応じて考慮し、合せて駐車スペース、車寄せ等も考慮する。
施設の品格やイメージを損なわないことを前提として、施設命名権の導入に問題はない。また、施設管理者は、市民サービスに長けたノウハウを有する組織が担うことを理想とする。興業運営等のノウハウ、知識の必要はない。	⑬施設命名権指定管理者制度	施設命名権の導入に際しては、スポーツ興業主権者との十分な協議を必要とする。また、プロスポーツの本拠地としての利用では、スポンサーシップへの影響を考慮する必要がある。指定管理者は施設運営のプロが担うべき。

## 2. “最適融合”の誤った考え方



両方の「いいとこ取り」  
なんていう都合の良いことは  
絶対にありません！



「みる」スポーツのための施設機能は  
顧客満足を最大化、最適化するために設けられる。  
よって、「する」スポーツの顧客満足も高められる。

3. 日本と欧米のスポーツ施設投資に関する考え方の違い “日本のスポーツ施設はなぜプロフィットセンター化しないのか・・・”

日本のスタジアム・アリーナ施設

欧米のスタジアム・アリーナ施設

スタジアム・アリーナはもうからない、もうけるべきではない  
(コストセンター)

スタジアム・アリーナは収益をもたらす存在  
(プロフィットセンター)

費用は  
公的資金が100%

コストの抑制  
のみを考える

稼ぐための  
工夫を凝らす

民間からの投資  
を得る

用地計画⇒郊外立地  
⇒アクセスは二の次

設備は最小限にする  
維持費を抑える

まちなか

好アクセス

稼ぐための  
設備導入

稼働率は問題にしない  
(低くてもいい)

必要とされる  
マネジメント能力の差  
《人材》  
《ノウハウ》  
《ビジネスセンス》

稼働率の最大化  
を戦略的に図る！

地域の“資産” (公共財として) とはならず  
ハコモノに終る……？  
《施設はつくったら終わり……》

←結果→

雇用創出・地域の活性化  
インバウンド需要の創出・都市開発の中心  
《施設はつくってからが始まり……》

#### 4. 「みる」スポーツのために必要な施設機能を基本として 「する」スポーツのために必要な施設機能を付加したスポーツアリーナの基本設計概要

##### 《図面資料 1》

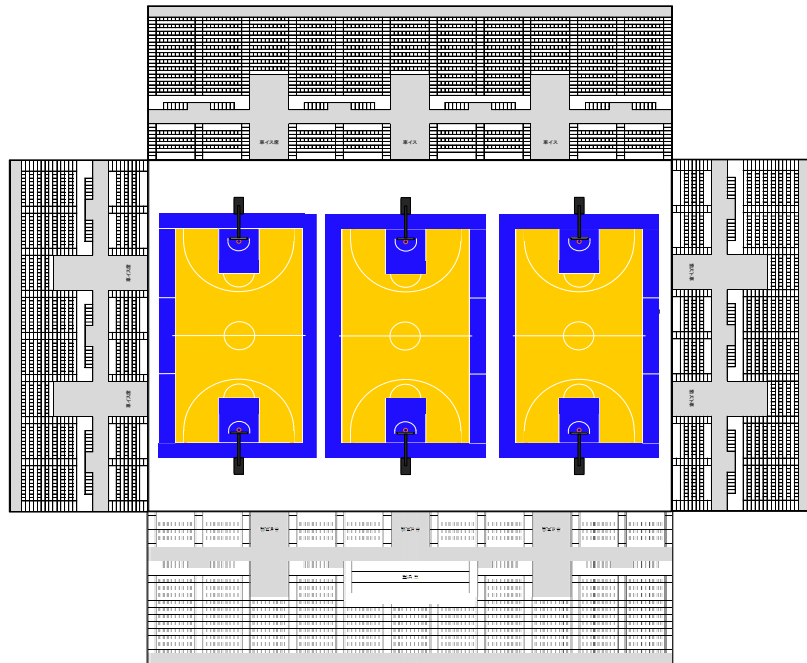
【図面No.1】 建築規模に関する課題 ～メインアリーナサイズと一面コート利用の利便性検証～

【図面No.2】 建築規模に関する課題 ～メインアリーナサイズの見えない問題に関する検証～

【図面No.3】 建築規模に関する課題 ～固定席規模とバックヤード規模の相関に関する検証①～

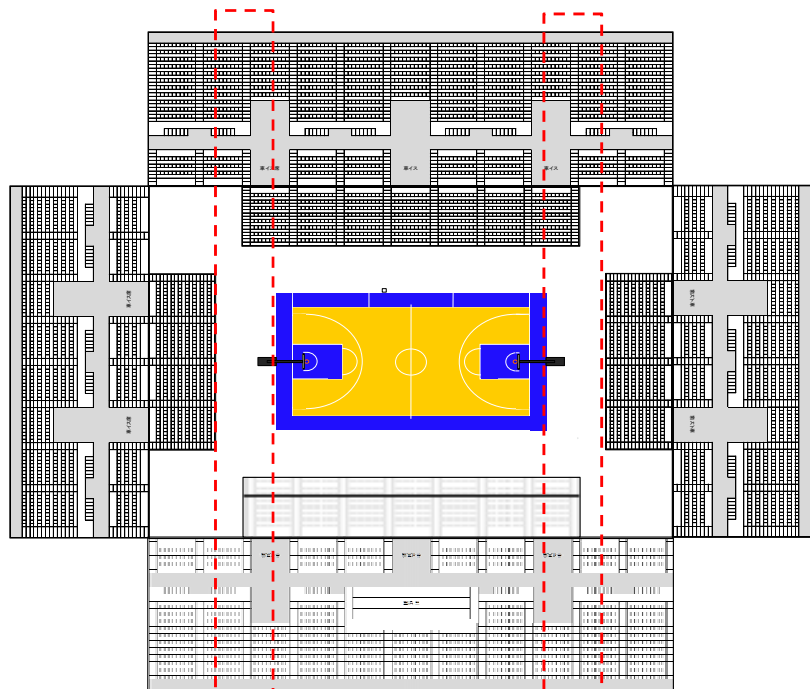
【図面No.4】 建築規模に関する課題 ～固定席規模とバックヤード規模の相関に関する検証②～

※使用した図面での施設の想定建築面積は、11,400㎡。想定客席数は、5,870席

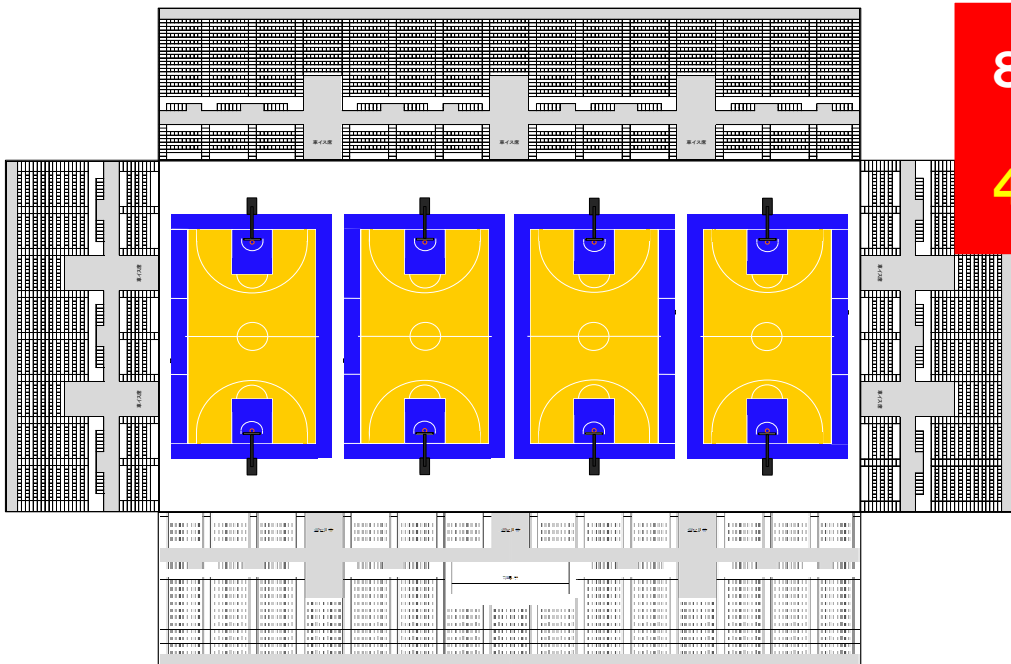


複数面利用時

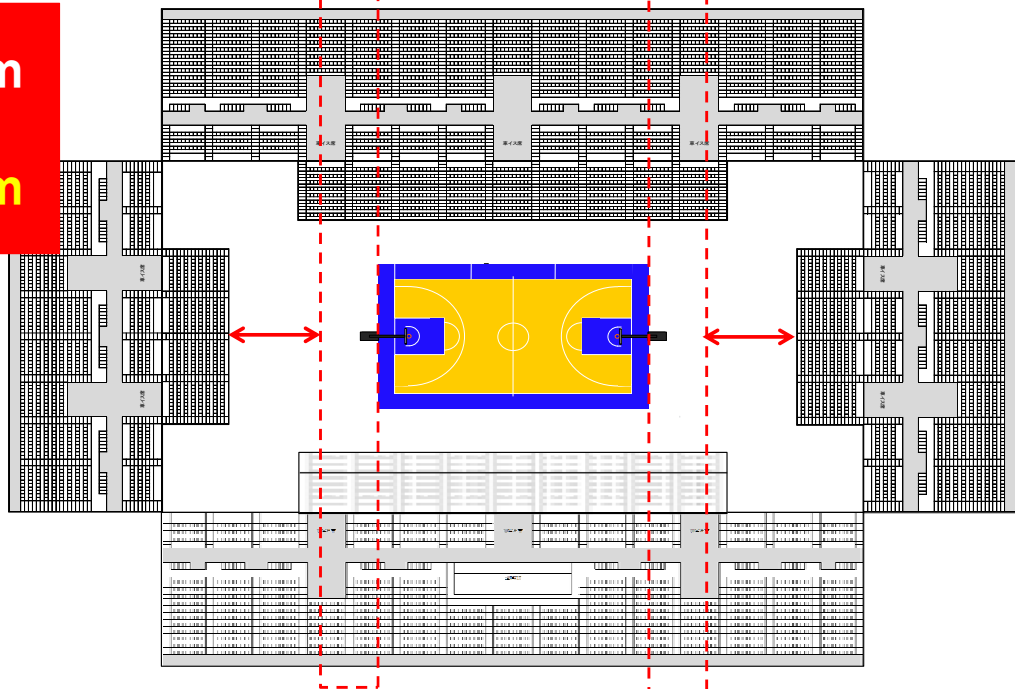
62m  
×  
46m

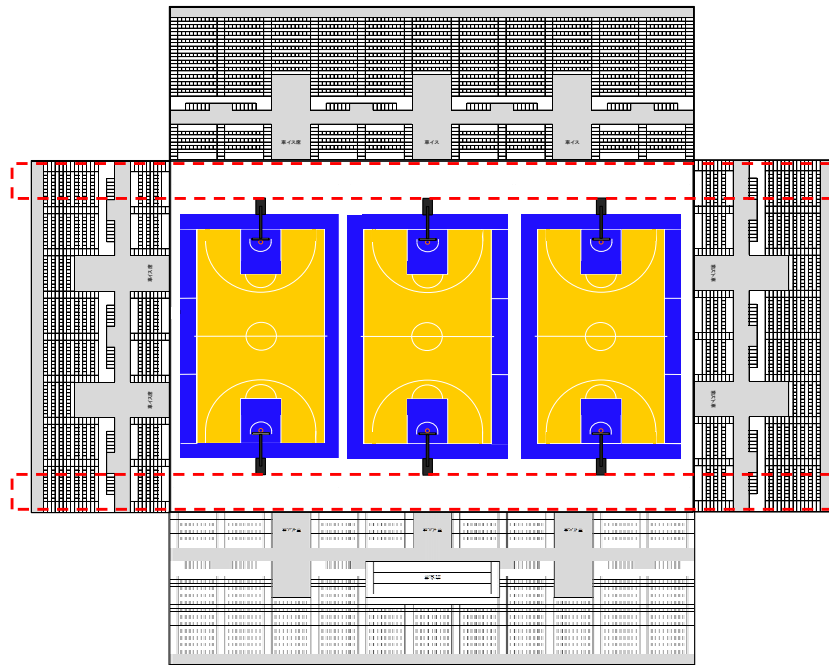


一面利用時

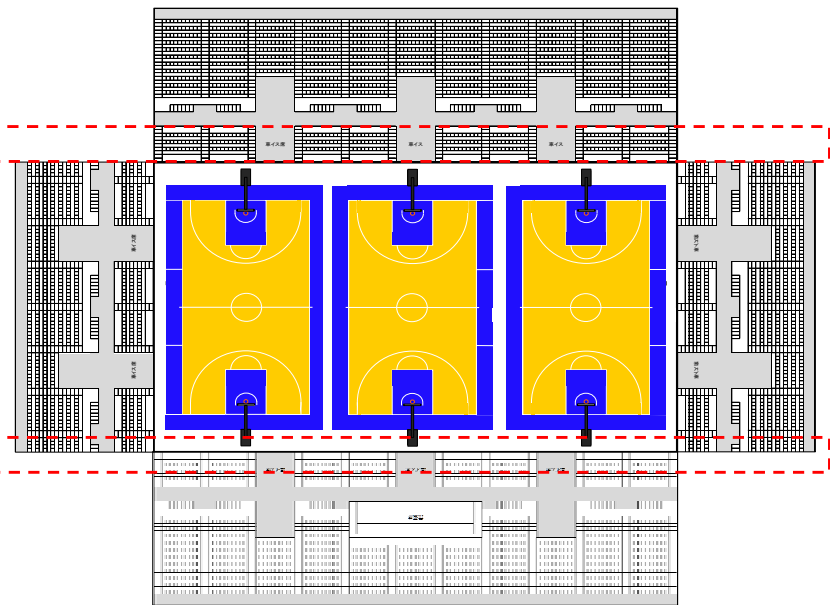


83m  
×  
46m

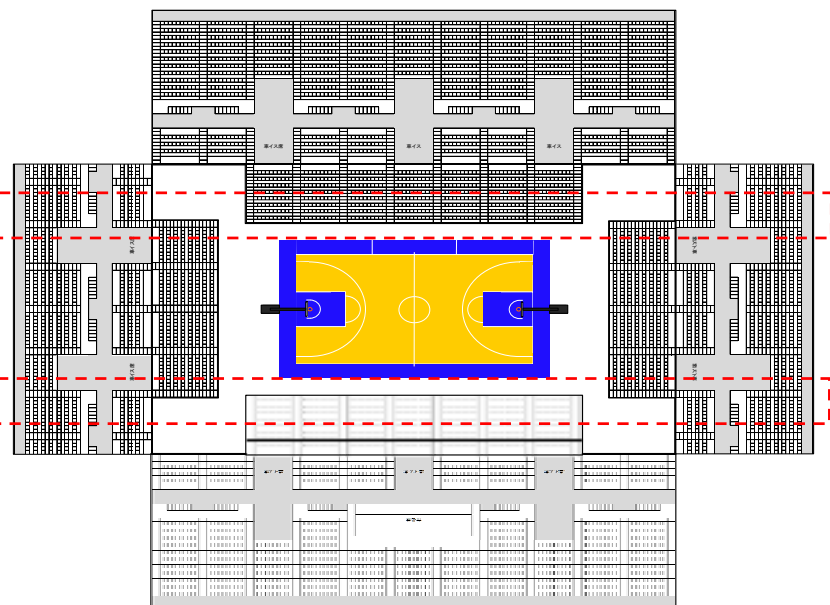
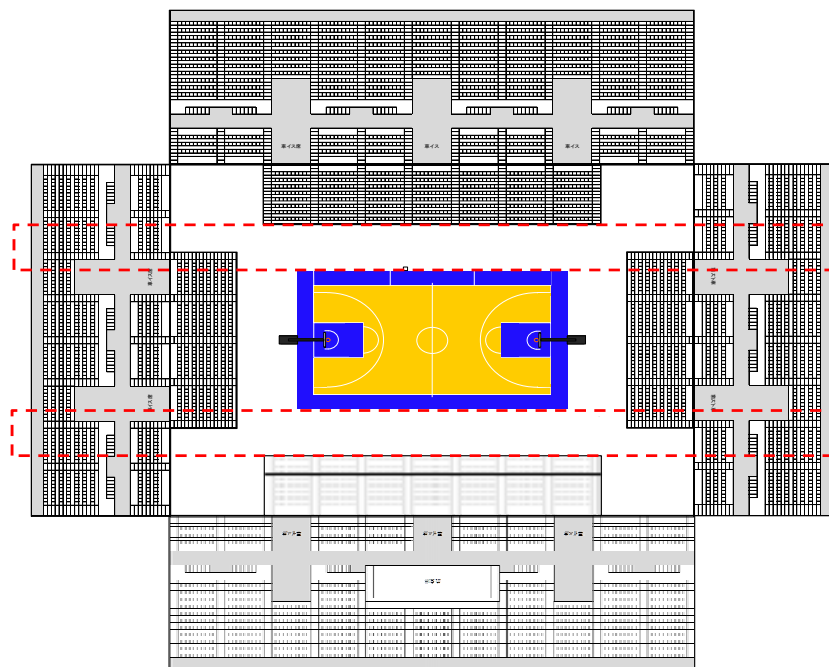


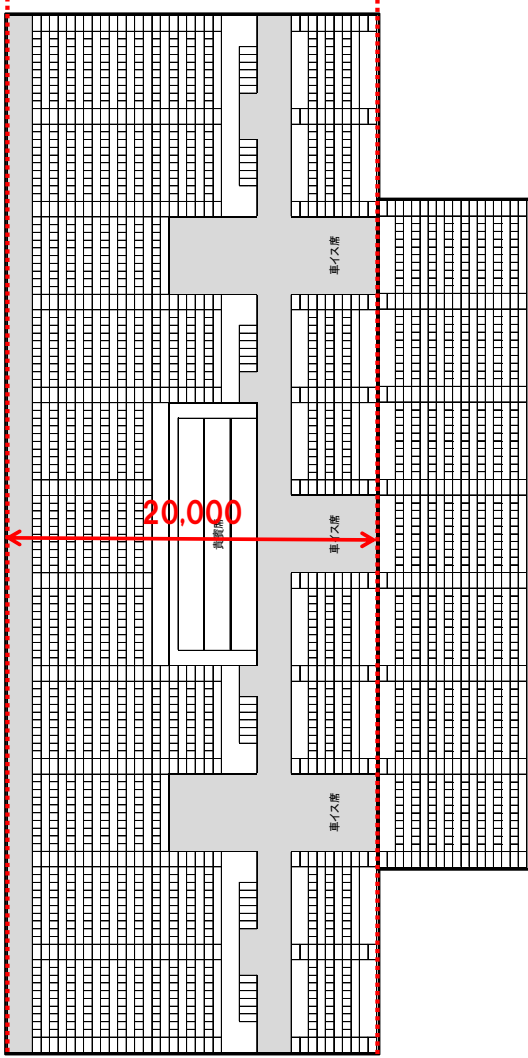
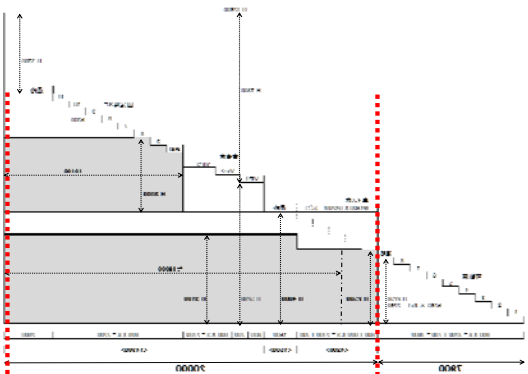


**62m × 46m**



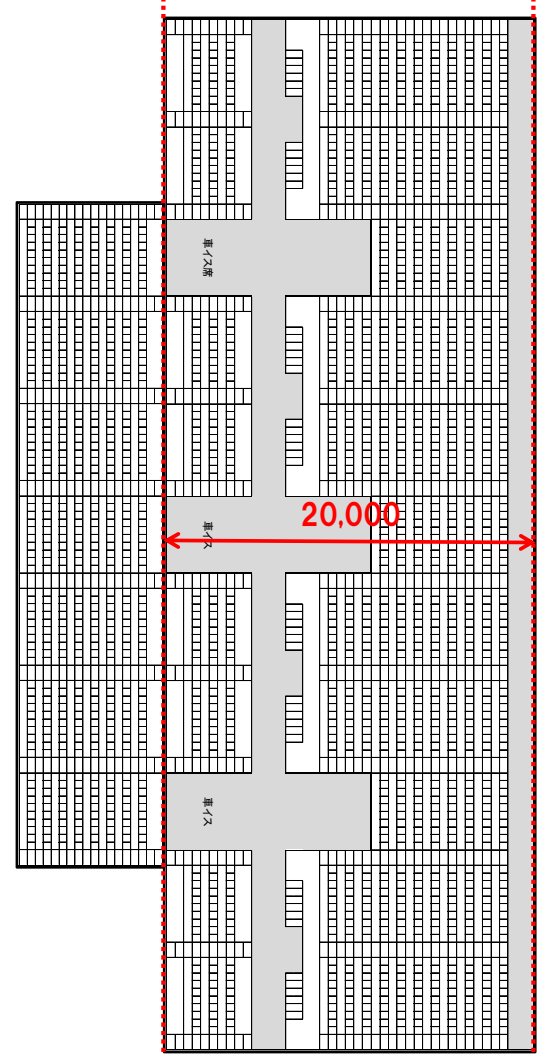
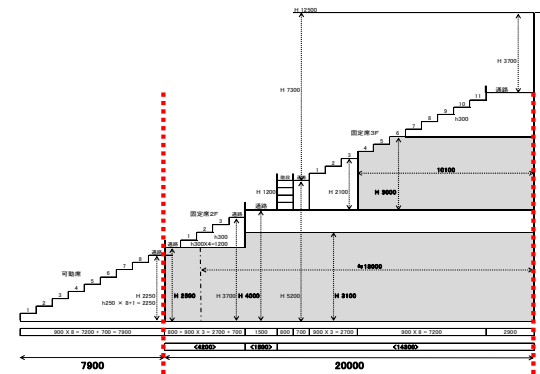
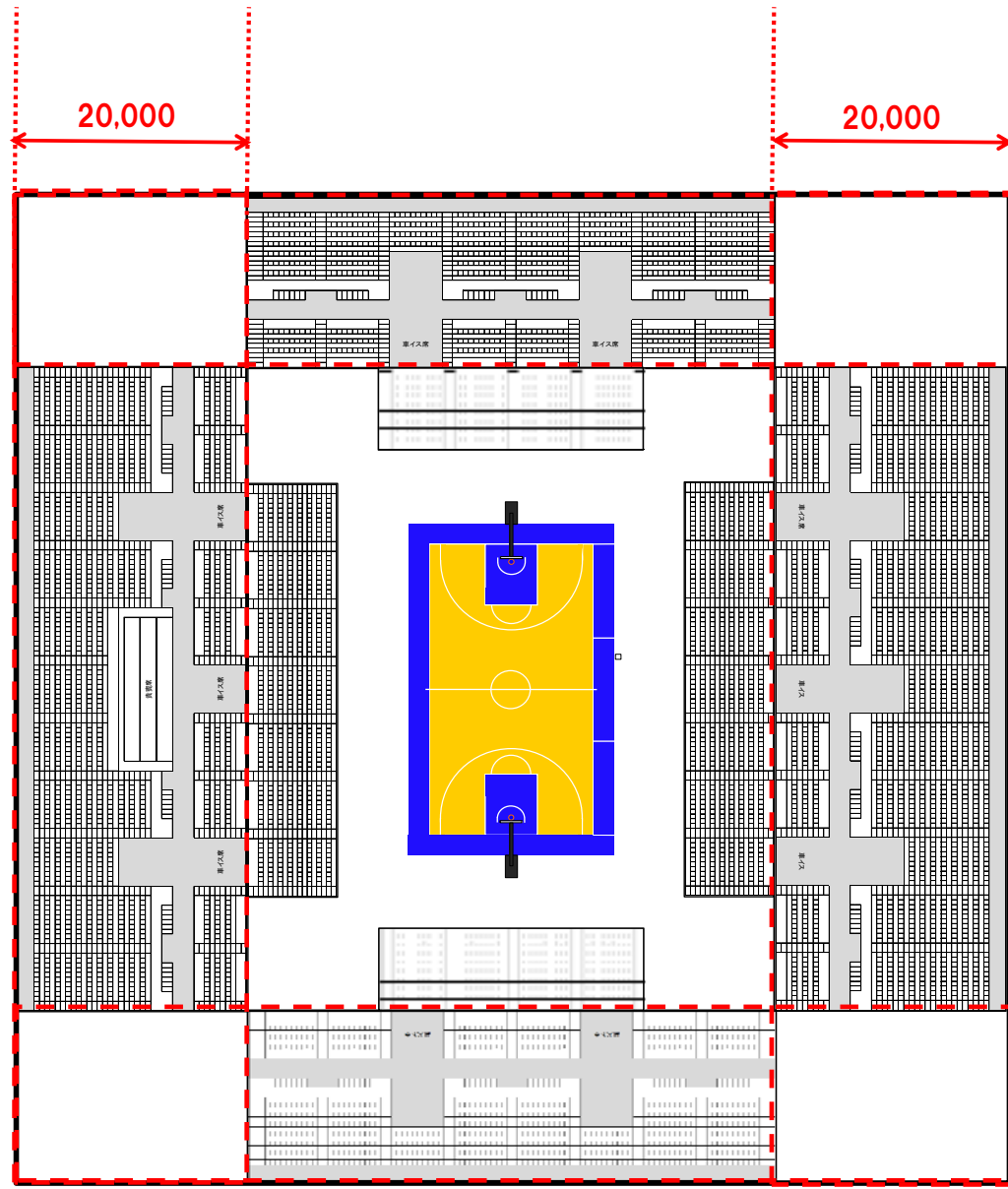
**62m × 38m**



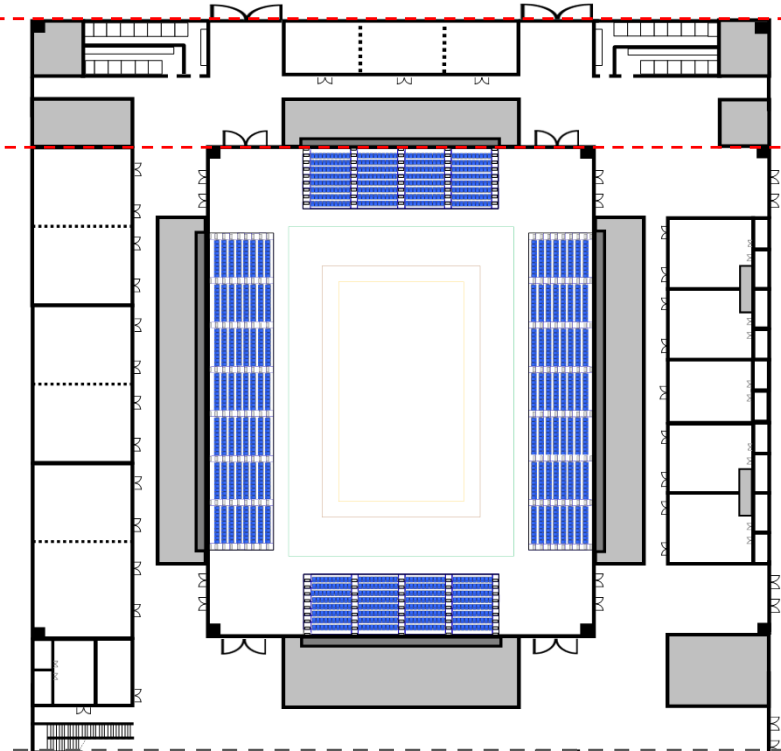
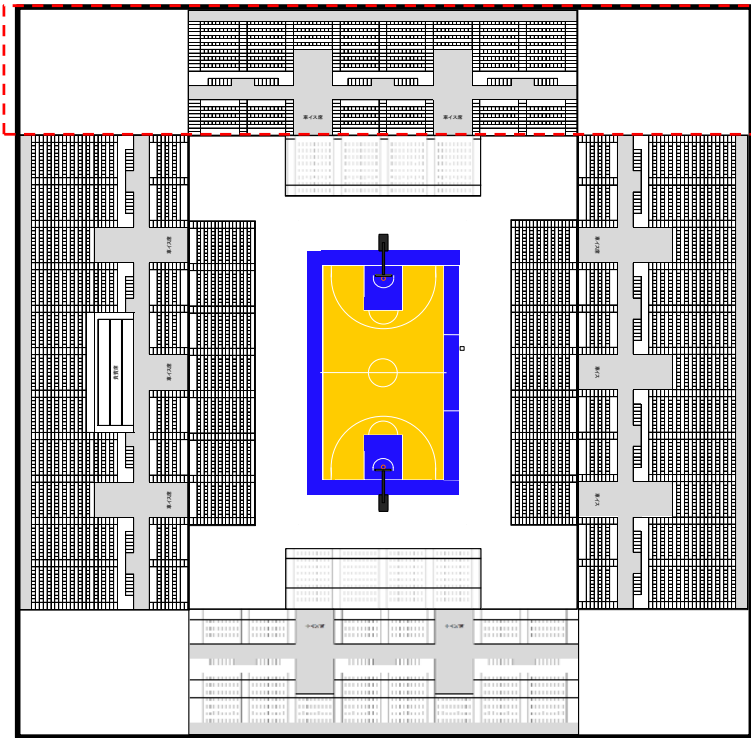
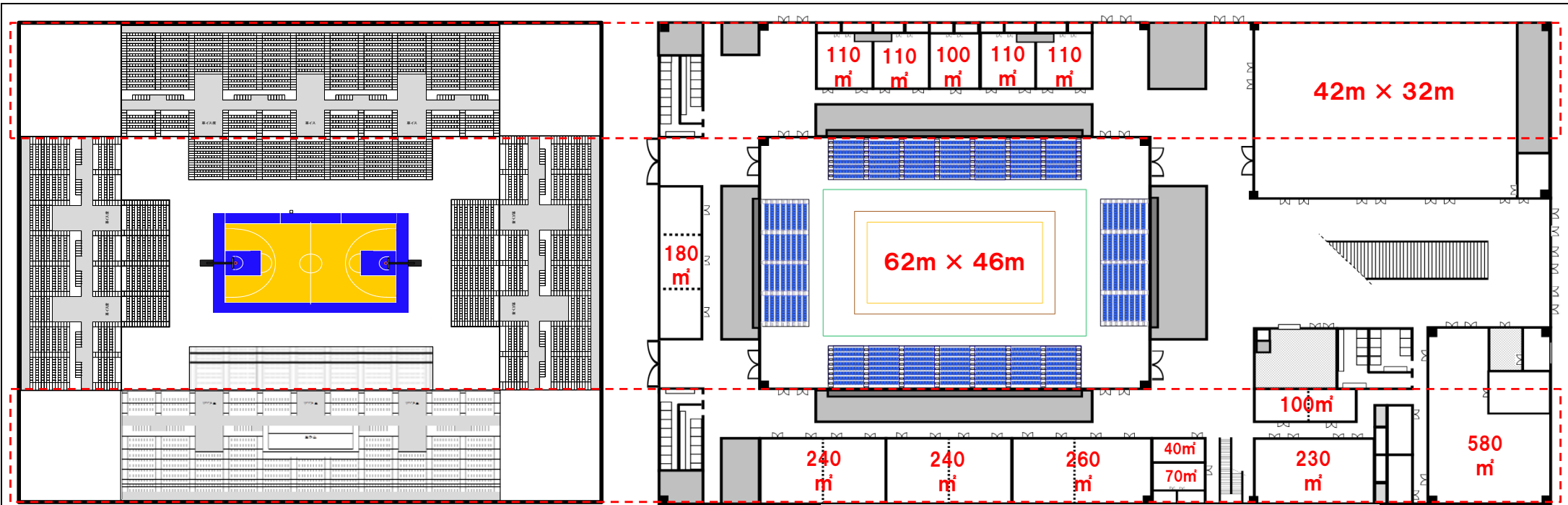


座席数	5,870席	□ 想定建築面積	: ≒11,400m <sup>2</sup>
■ 固定席 (スタンド席)	: 4,000席	□ 想定敷地面積	: ≒17,000m <sup>2</sup>
■ 可動席 (アリーナ席)	: 1,760席	□ メインアリーナサイズ	: 62m × 46m
■ 貴賓席 (VIP専用)	: 60席	□ メインアリーナ面積	: 2,852m <sup>2</sup>
■ 車イス席 (介添付)	: 50席	□ バックヤード有効総面積	: ≒3,500m <sup>2</sup>

※対総席数比率: 0.85%







## 5. 「みる」スポーツのために必要な施設機能に特化したスポーツアリーナの基本設計概要

---

### 《図面資料 2》

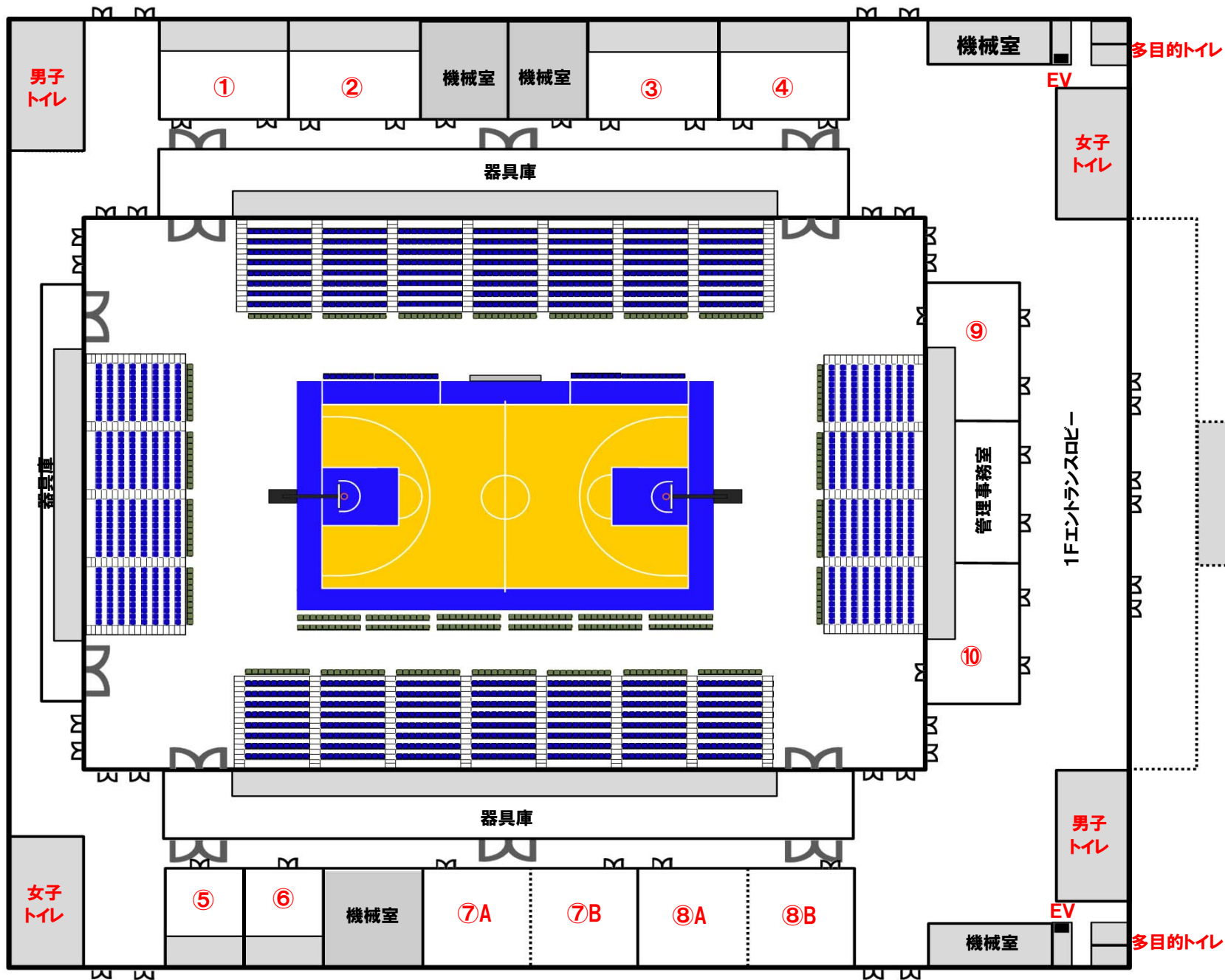
【図面No.1】 1Fフロア図

【図面No.2】 2Fフロア図

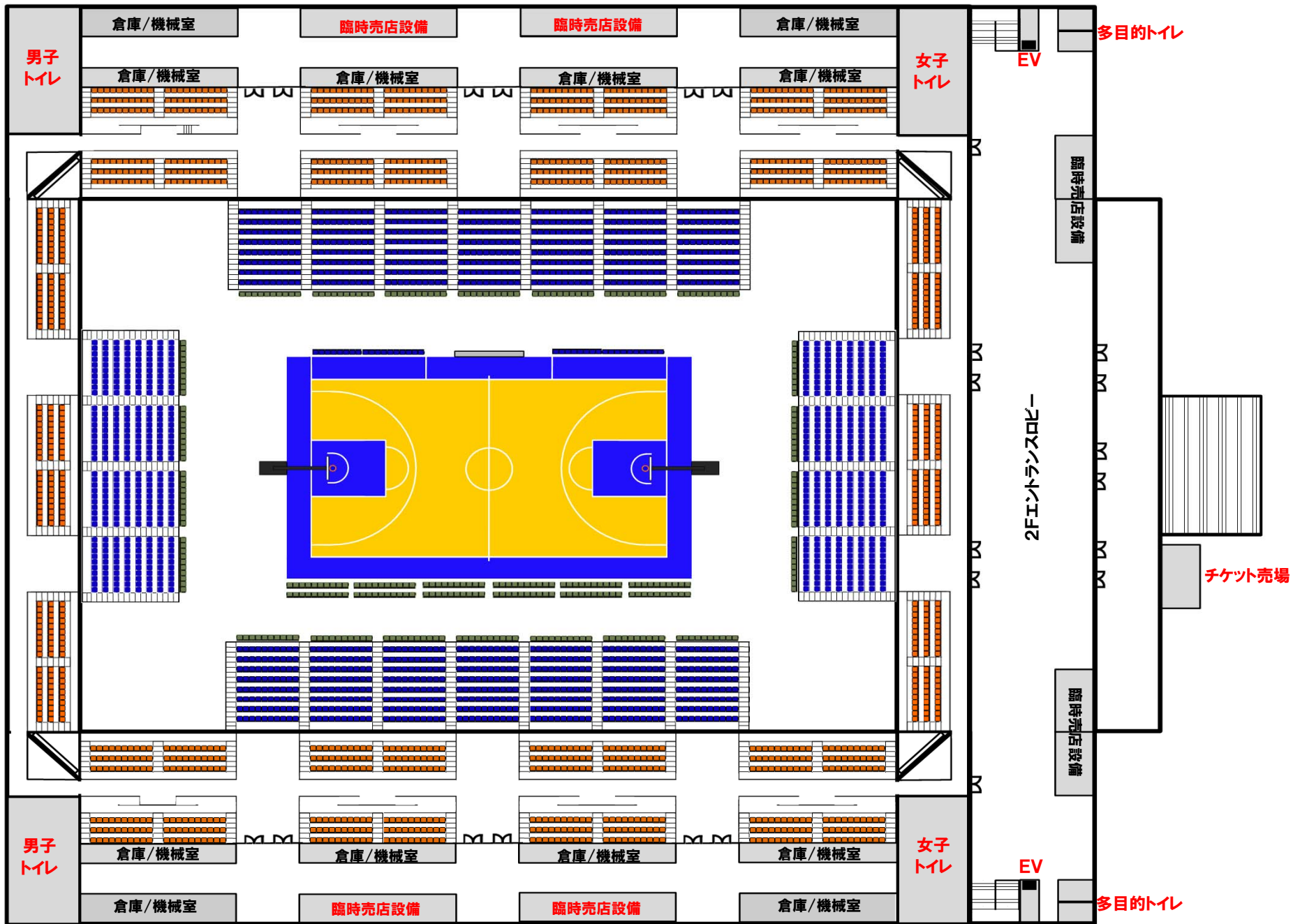
【図面No.3】 断面図①

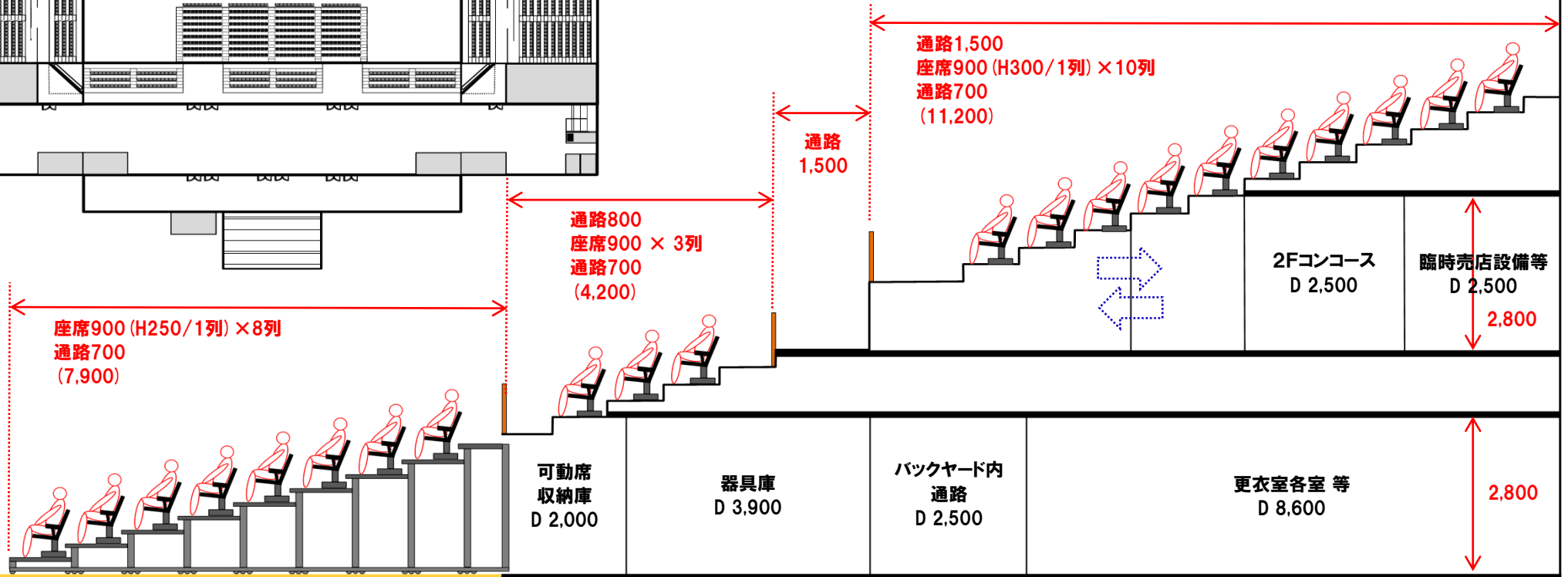
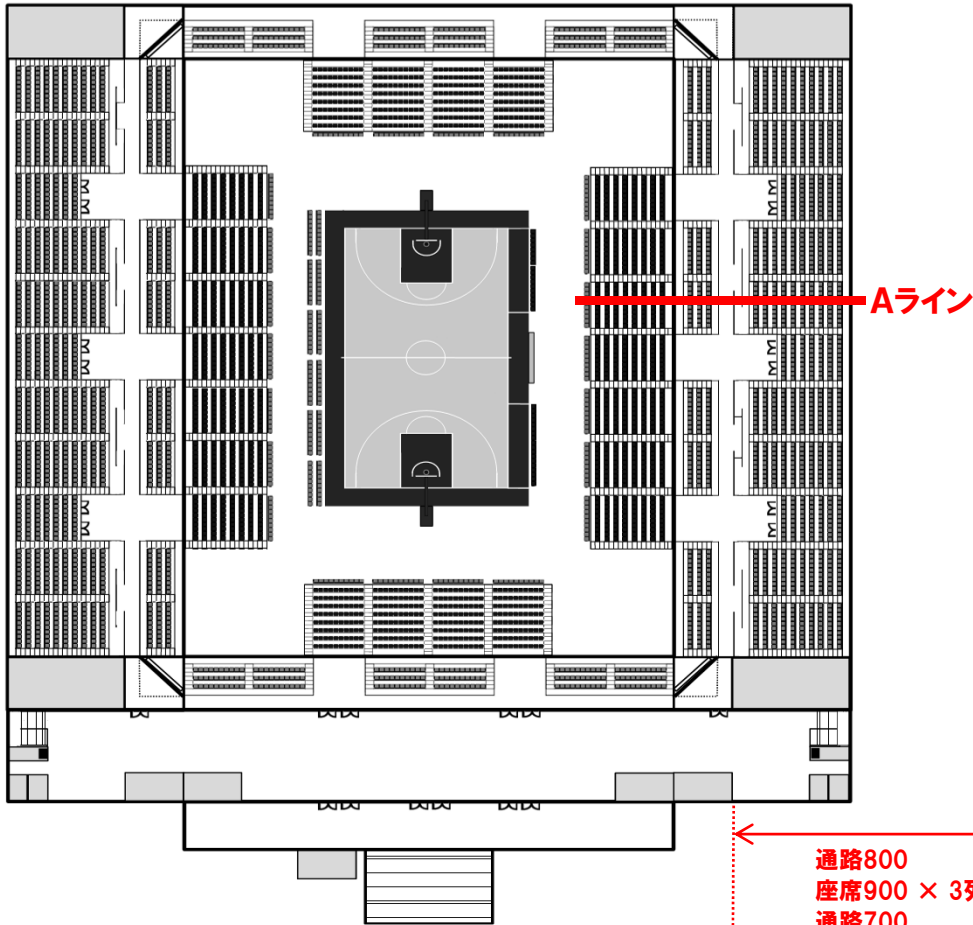
【図面No.4】 断面図②

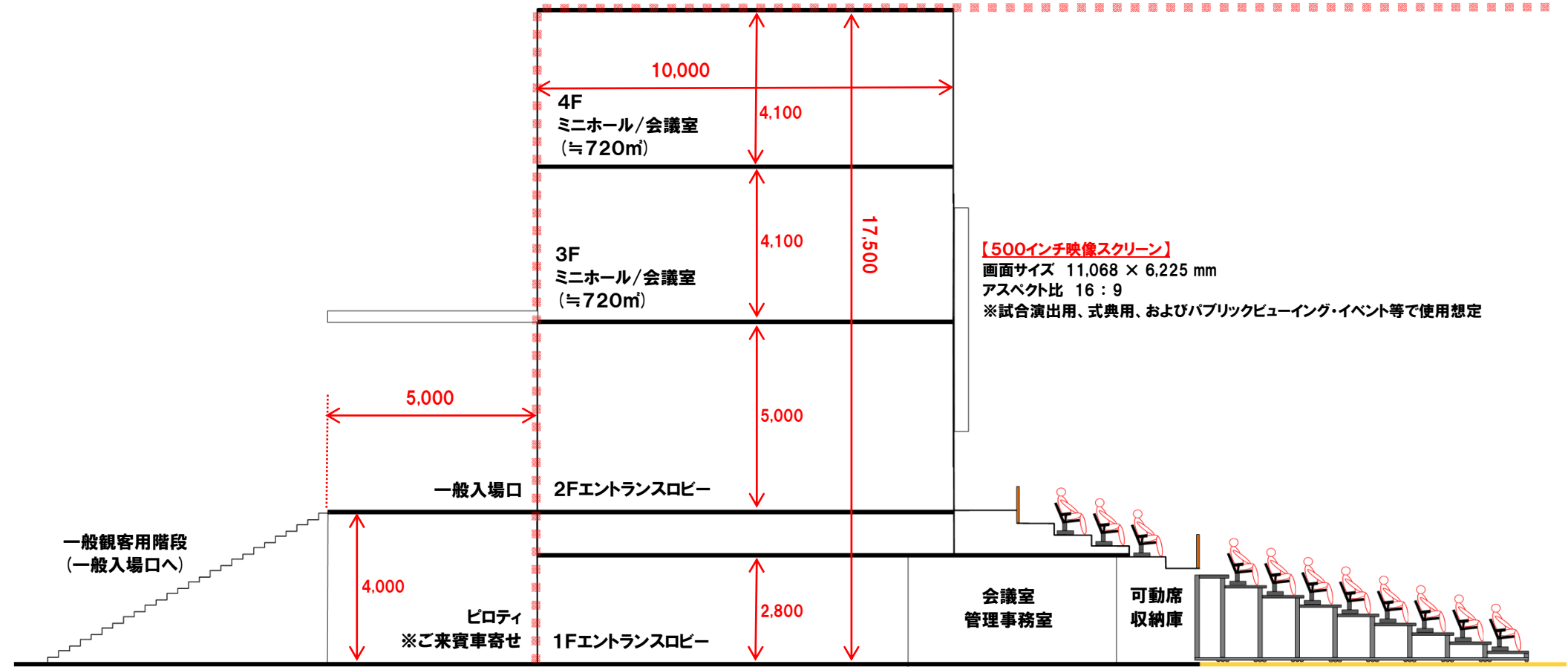
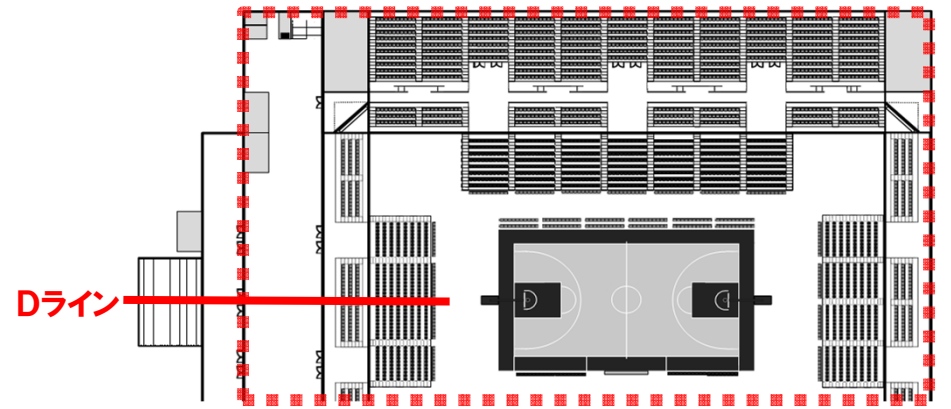
※使用した図面での施設の想定建築面積は、7,000㎡。想定客席数は、5,020席



①	更衣室 {1}	86㎡
②	更衣室 {2}	86㎡
③	更衣室 {3}	86㎡
④	更衣室 {4}	86㎡
⑤	更衣室 {5}	52㎡
⑥	更衣室 {6}	52㎡
⑦	会議室 (1) A/B	142㎡
⑧	会議室 (2) A/B	142㎡
⑨	会議室 (3)	70㎡
⑩	会議室 (4)	70㎡







## 6. 参考資料（「みる」スポーツのためのアリーナ施設で開催した国際大会の計画図面）

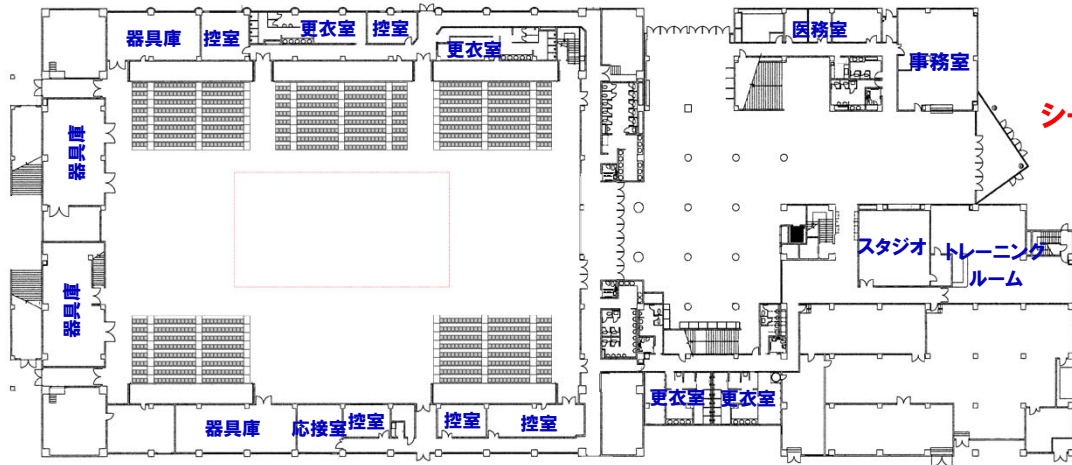
---

### 《図面資料 3》

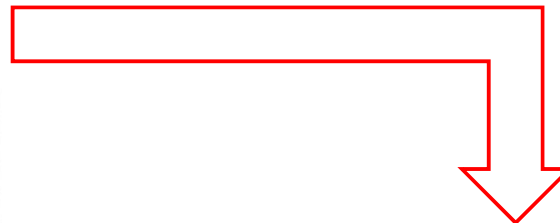
【図面No.1】 長崎県大村市における施設利用事例（シーハットおおむら）

【図面No.2】 東京都大田区における施設利用事例（大田区総合体育館）

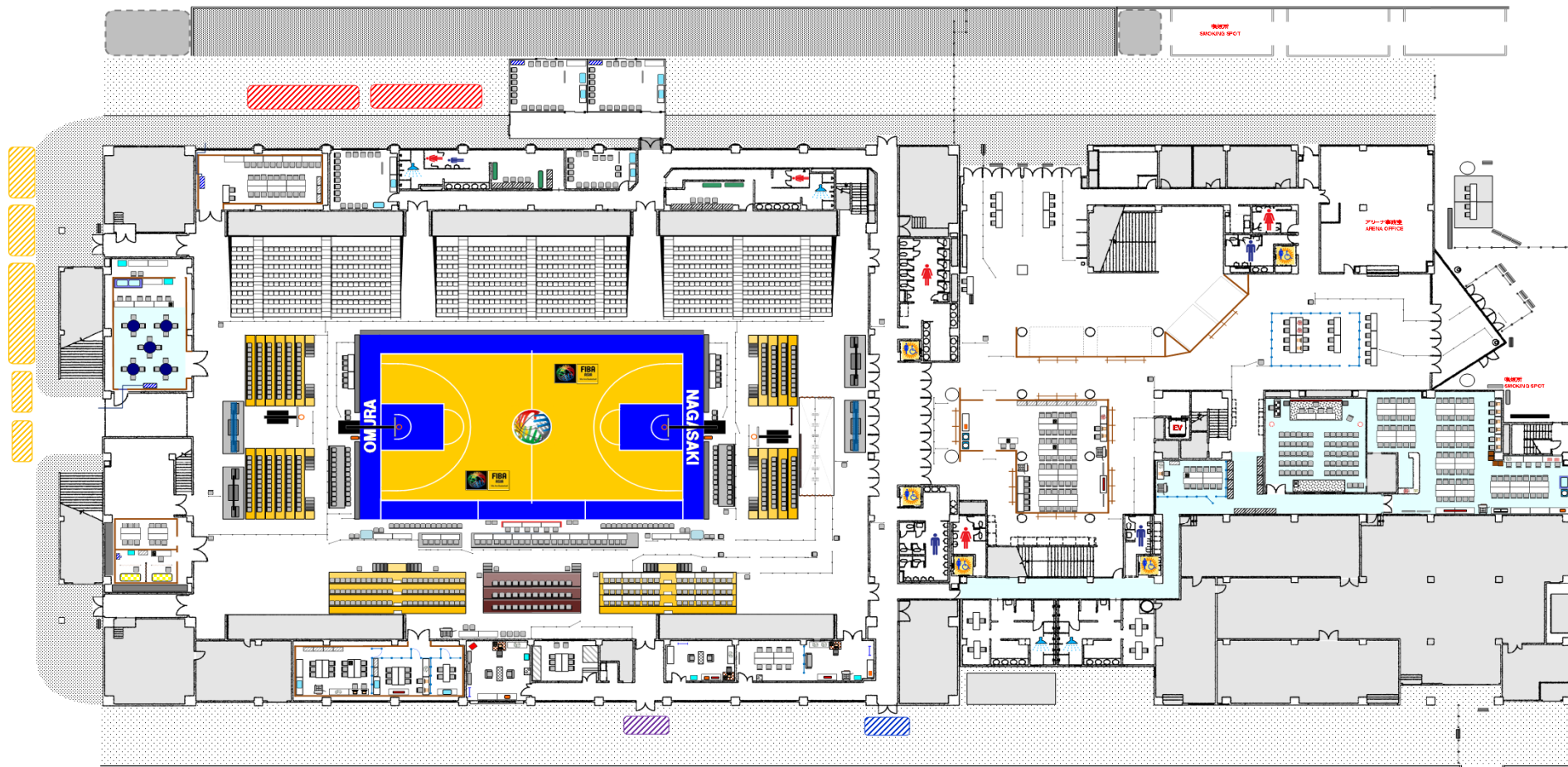
【図面No.3】 愛知県小牧市における施設利用事例（パークアリーナ小牧）



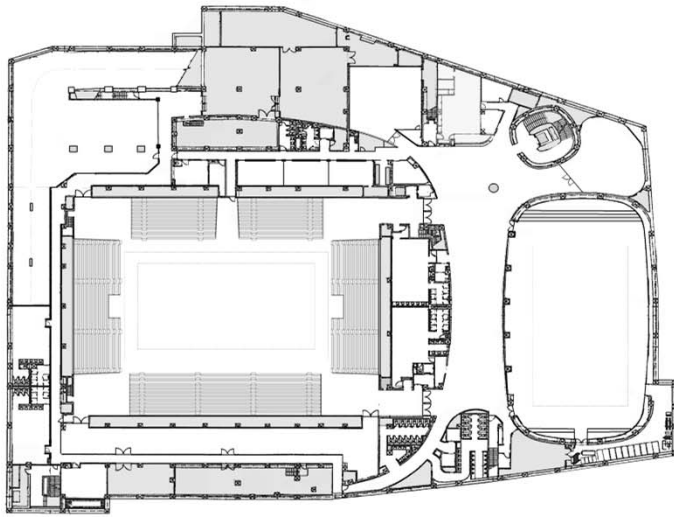
シーハットおおむら



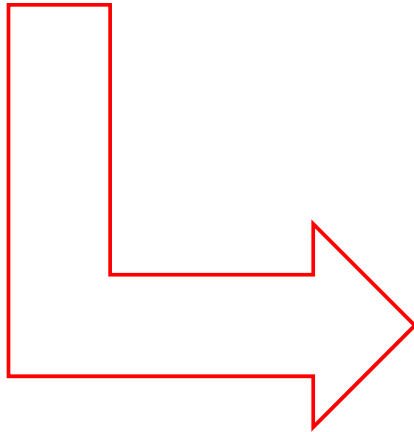
ロンドン・オリンピック アジア地区予選  
 FIBAアジア女子バスケットボール選手権 長崎・大村大会 2011  
 試合会場



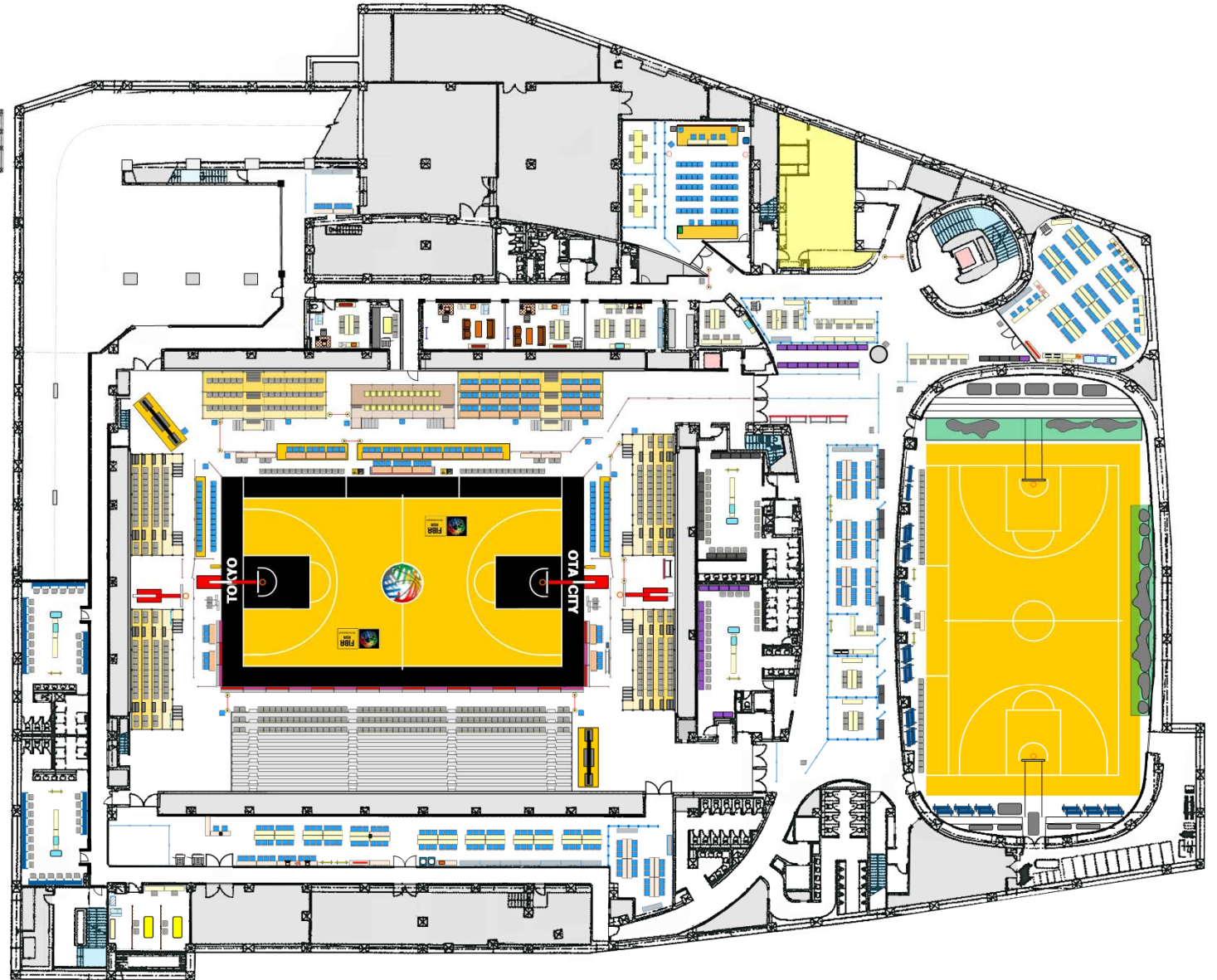


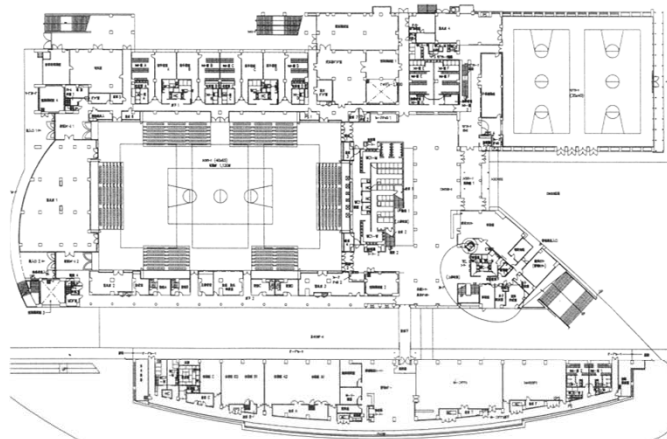


大田区総合体育館

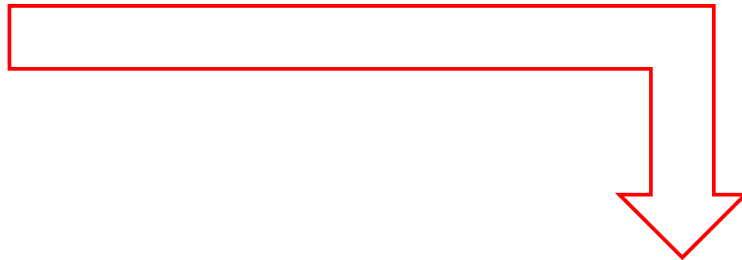


FIBAアジアカップ 東京大会 2012  
試合会場





パークアリーナ小牧



東アジア男子バスケットボール選手権 小牧大会 2009

運営関連諸室	
1	運営本部
2	アクレディテーションデスク
3	競技記録室
4	LOCルーム
5	LOC倉庫
6	救護室
7	当日券売場
8	LOCプレスオフィス
9	警備員控室
VIP関連諸室	
10	VIPルーム (JBA/ABA)
11	VIPルーム (EABA)
12	VVIPルーム
チーム関連諸室	
13	チームロッカールーム A
14	チームロッカールーム B
15	チームロッカールーム C
16	チームロッカールーム D
レフェリー/ゲームオフィシャル関連諸室	
17	レフェリー控室 A
18	レフェリー控室 B
19	ゲームオフィシャル控室
メディア関連諸室	
20	メディアワークルーム
21	記者会見室
22	ミックスゾーン
ブロードキャスター関連諸室	
23	ブロードキャスター控室
24	TVコンパウンド

